

SENCHA

茶器が語る、
東西の美意識

企画展

CHANOYU



煎茶道具一式(棚飾り)
江戸時代・明清時代(17~19世紀)
森克彦氏寄贈



和洋
茶器くらべ

茶の郷宴



(上)耳付水指 備前窯
(中)織部茶入 銘「喜撰」美濃窯
(下)黒織部茶碗 美濃窯 加藤舜陶氏寄贈
全て安土桃山時代(16世紀後半~17世紀初頭)

TEA SYMPOSION: CONTRASTING TEA WARE

TEASET



ティーセット《ジャパン》
ロイヤルクラウンダービー イギリス 20世紀

2026
3/20^{金祝}—5/17^日

※会期中、軸物のみ展示替えを行います。前期:4月19日(日)まで
会場/本館 展示室1-A 後期:4月21日(火)から

開館時間/午前9時30分~午後4時30分

(入館は午後4時まで ただし、3月20日(金・祝)は
開会式のため午前11時から)

休館日/毎週月曜日(※ただし、5月4日(月・祝)は開館)

観覧料/一般600円(480円)、高校・大学生500円(400円)、
中学生以下無料 ※ ()内は20名以上の団体料金

主催/愛知県陶磁美術館

後援/愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)



愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

企画展

茶きょうの郷食宴えん

き
よ
う

えん

和洋
茶器
くらべ

本展は、日本の茶の湯・煎茶、そして西洋のティーカルチャーにおける茶器の美意識を見くらべます。

茶の湯は、侘びの美意識に基づき、質素で研ぎ澄まされた美が特徴です。

煎茶は、中国の文人が好んだ清らかで自由な美意識を背景に、

古今の多彩な器を組み合わせる点が特徴です。

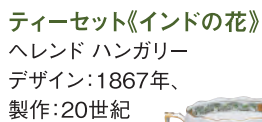
一方、西洋のティーカルチャーは、17世紀末に定着し、19世紀のアフタヌーンティーへと発展した、同じ形・デザインで揃える美意識が特徴です。

プラトンの『饗宴』にちなみ、

これらの茶器の美意識が対話するように、
それぞれの特徴や楽しみを紹介します。



TEA SYMPOSION: CONTRASTING TEA WARE



「饗宴茶会」煎茶・抹茶の喫茶と茶器鑑賞

(全4回、要事前申込・要参加料、各回定員15名)

日時:4月12日(日)①午前10時~/②午後2時~

5月17日(日)③午前10時~/④午後2時~

共催:茶室「陶翠庵」(会場)、煎茶道売茶流

各回1時間30分程度

※参加料、お申し込み方法、会場などの詳細は公式WEBページにてご案内します。

募集期間:①・② 3月20日(金・祝)午前11時から4月1日(水)午後1時まで

③・④ 4月28日(火)午前11時から5月7日(木)午後1時まで

応募多数の場合は抽選とさせていただきますので、ご了承ください。

担当学芸員によるギャラリートーク

(要観覧券、事前申込不要、先着20名程度)

日時:3月28日(土)、4月5日(日)、

4月25日(土)、5月10日(日)

各回午後1時30分開始 1時間程度



●公共交通機関
リニモ「陶磁資料館南」駅下車、
徒歩600m(リニモへは地下鉄東
山線「藤が丘」駅または愛知環状
鉄道「八草」駅で乗り換え)
名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅下車、
「瀬戸駅前」のりば1から名鉄バス
「菱野団地」經由「愛・地球博記
念公園駅」行き「陶磁美術館」下
車(土・日・祝のみ)。

●自家用車
駐車場無料・250台、
大型バス9台収容

次回展覧会の
お知らせ

特別展「巨匠ハインツ・ヴェルナーの描いた物語
—現代マイセンの磁器芸術—」
2026年5月30日(土)～9月27日(日)

愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

〒489-0965 瀬戸市南山口町234番地
TEL:0561-84-7474(代表) FAX:0561-84-4932
公式Webページ <https://www.pref.aichi.jp/touji>

